

# AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2014年12月 No.43 定価 150円  
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1  
 認定特定非営利活動法人 アムダ：AMDA  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail: member@amda.or.jp  
 編集：AMDA ボランティアセンター  
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

## フィリピン台風 30号復興支援活動

台風30号がフィリピンを襲った2013年11月8日から1年が経過しました。AMDAは、緊急支援活動として医療チームの派遣を実施し、2013年12月末までで、のべ8か国25人のスタッフを派遣しました。被害が大きかった地域を中心に、レイテ島、サマル島、ボホール島、パナイ島、ネグロス島、セブ島などで医療支援活動などを実施しました。2014年1月からは復興支援活動として、被災地の協力機関と連携をしながら、支援活動を継続しています。

災害から1年近くが経過した2014年11月6日から、AMDA看護師1名を日本からレイテ島タクロバン市に派遣。地元行政の主催する慰霊行事への参加と復興支援活動を実施しました。

### 災害発生から1年 AMDA看護師が見た現在のレイテ島タクロバン市

災害発生から1年。11月7日に台風で壊滅的な被害を受けたレイテ島タクロバン市のタクロバン空港に到着しました。空港は現在も復旧工事中ではあったものの、タクロバン市中心部は町の活気が戻りつつあるように見えました。

瓦礫が片付けられた通りには多くの人や車が行き交い、屋台が立ち並び、町の人々の顔には笑顔が戻っています。新しい建物の建築や壊れた建物を修繕している様子もあちらこちらで見られました。海岸線沿いに住んでいた人は、仮設住宅に移る人もいれば、海岸線に家建て直す人もいます。現地情報によると、仮設住宅は現在建築中で、その戸数はまだまだ不足しているということでした。

修理の必要な公共施設や学校なども、そのままの状態が多く残されていました。

今回の滞在中には、食糧配布を実施しました。支援物資を手渡ししながら、笑顔の奥にあるフィリピン30号での被災体験を聞くことができました。表面的には、笑顔があふれているように見えますが、そこに住む多くの方々には、未だ記憶に残る、被災体験があります。

水に浮かぶ冷蔵庫に入って助かった子供たち、木に必死にしがみついで生き残った男性、夫が水に飲まれていくのを目の前でみた老女、新しく設置したばかりのキャビネットにしがみついで2階につながる階段までたどり着いて助かった男性、遺体が道端を埋め尽くす中、支

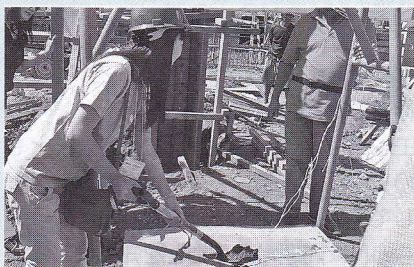


被災者の方々から話を伺う AMDA 岩本看護師

援物資が届くタクロバン空港まで歩いた人々。

心の傷を抱えながらも懸命に前に向かって立ち上がろうとしている人々に会うたびに、復興支援活動を継続していく意義を改めて感じました。

### レイテ医師会再建事業



くわ入れ式の様子

台風30号により倒壊したレイテ医師会館を、現地の健康促進事業と災害時の緊急支援拠点として、再建支援を実施します。これは、日本医師会、福山市医師会、AMDAの三者合同復興支援事業となります。

再建場所は、台風30号の高潮被害から逃れたタクロバン市ハリウッド。11月9日には、再建前の「くわ入れ式」が行われ、AMDA看護師も参加しました。

建設完了は2015年3月から4月ごろを予定しています。

### 食糧支援事業



戸別に訪問して支援物資を配布

11月8日。AMDAでは、レイテ州議員と協力して、クリスマスまで2ヶ月を切ったこの時期に台風30号復興支援としてクリスマス食糧パック（スパゲティ、トマトソース、チーズ、コーンビーフ、ジュースの素）の配布をタクロバン市PHHC地区で実施しました。支援物資は、スタッフが各家庭を回り、ひとつひとつ手渡しました。「本当にうれしい。ありがとう。」など多くの感謝の言葉がかけられ、中には言葉はなく、ただ涙ぐむ方もいました。

### 無料巡回診療



未だ押し上げられた船が残る地域での巡回診療の様子

AMDAでは、レイテ医師会と合同で、無料巡回診療を実施しました。2014年3月から月に1回実施しており、10月までの8回行っています。

成人では高血圧、上気道感染、小児では上気道幹線や栄養不良などが多くみられました。そこで巡回診療に合わせて、衛生指導や、石鹸、歯ブラシなどの衛生用品の配布なども実施しました。また、栄養指導なども取り入れ、フルーツジュースやおかゆを提供するなど、医療を中心とした幅広い支援を実施しました。

## スリランカ中南部地滑り 災害被災者に対する緊急支援活動

スリランカではモンスーンによる大雨が続いた影響により、10月29日大規模な土砂崩れが、スリランカの最大都市であるコロomboから東に約200kmに位置するバドゥラ郡で発生しました。

この状況を受け、AMDAでは、支援活動の実施を決定。AMDAスリランカ支部、地元NGOサルボダヤ、バドゥラ郡歯科健康保健局の協力者・クロス医師らと協働すべく、11月2日に日本からAMDA調整員1名を被災地に派遣しました。

4日訪れた被災地バドゥラで避難所となっているプーナガラタミル学校では、1050人が避難していました。そのうち



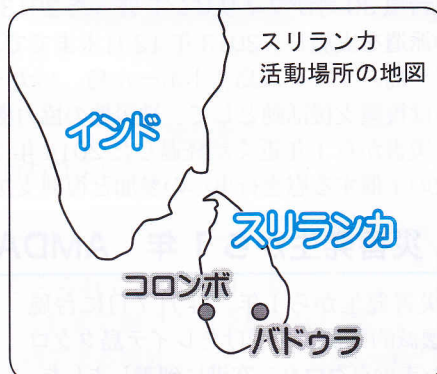
訪れた避難所の様子

の約半数は、土砂崩れにより自宅を失い、残りは二次被害を避けるため、自主的に避難している方々でした。またこの避難所の近くにも300人ほどが避難する避難所が設置されていました。避難所はバドゥラ保健局医療部によって24時間対応で医療支援が実施されており、呼吸器疾患と外傷などが目立ち、多くの患者で混雑していました。いずれの避難所も、部外者は立ち入れないよう制限されていましたが、AMDAは現地協力者のもとニーズ調査を行うことができました。

その結果、避難所での食料、衣類、医薬品など生活物品の供給は既に満たされていましたが、乳幼児の離乳食や育児に必要な乳児用の食器などは不足している状況が確認できました。そこでAMDAでは地元医師と協同で100人分の離乳食と食器を準備し、提供しました。

また、救援活動として、救急車が現場と避難所を往復し、患者輸送を行っており、災害現場から避難所までは150kmあまり離れているため、患者の搬送には

膨大な燃油費がかかっていました。そこで、AMDAでは地元NGOサルボダヤと協同で、患者の搬送にかかる救急車の燃料費を提供しました。なお、サルボダヤは2013年4月に岡山でAMDAが開催したアジア相互扶助災害医療ネットワーク会議のネットワーク構成メンバーでもあります。



スリランカ活動場所の地図

### ■派遣者プロフィール

ニッティヤン・ヴィーラバアエグ  
AMDA 緊急救援担当課長・AMDA インターナショナル事務局長／調整員／岡山市在住

## モンゴル国視能訓練技術移転事業

2014年9月8日からの4日間、日本から専門家を派遣して子どもの目の健康に焦点をあてたセミナーや実習等を実施しました。これは、岡山県国際貢献ローカル・トゥ・ローカル技術移転事業として助成を受けています。

小児の眼科健診システムが整っていないモンゴル国内において、小児の弱視、斜視、その他の眼科疾患については発見が遅れたり、放置されやすい現状があります。このことは、子どもの教育を受ける環境を阻害する恐れがあります。このような状況を受け、モンゴル眼科医協会の要望により2010年から毎年、モンゴルへ日本から専門家を派遣して子どもの目の健康に焦点をあてたセミナーや実習等の事業をおこなっています。

さらに今回は、眼科医、並びに教育関係者、保護者を対象とした小児の視機能健診の効率的実践を実際の診療現場で実施しました。



川崎医療福祉大学 高崎先生による検眼の様子を見守るモンゴルの医師ら

眼科学校健診の研修会には、ウランバートル市内の眼科医35名と40名の学校医が参加しました。また、研修会のほかに未熟児網膜症など、目に重大な問題を抱えた子ども28名の検査、さらには第58小学校に入学したばかりの1年生345名全員の眼科健診を日本モンゴル友好病院で行いました。眼科学校健診の結果、両眼とも0.7以上は277名で、2割の児童は再検査の必要がありました。

全体として強度近視で失明予備群の児童1名を含め、眼科医の治療が必要と思われた児童が9名、眼鏡検査が必要な児が35名いることが分かりました。

検査を受けた子どもの保護者からは「日本の先生がこれほど丁寧に診てくれるとは感激だ」など多くの感謝の言葉をいただきました。

またこの検査結果については、モンゴル保健省、ウランバートル市保健局などにも共有することができました。

さらに、モンゴル眼科協会会長と、モンゴルHTテレビに出演して、広く一般に眼科視覚健診の重要性を訴える機会をいただきました。

日本の専門家の帰国後、モンゴル眼科協会が初回の検査で問題のあった53名のうち46名の子どもたちに対して、4日間にわたって再検査を行いました。その結果、38名の子どもに後楽ライオン



受診した子どもたちと一緒に

ズクラブから提供されたフレームで眼鏡を作ることができました。

モンゴル眼科協会から、「すくなくともこの53名の子どもたちは、AMDAが実施してくれたこの健診がなければ、自分たちの目に問題があることを知ることはなかった。長年にわたるAMDAの協力に感謝している」とのコメントとともに眼鏡をもらった子どもや保護者から感謝のメッセージや絵が贈られました。

### ■派遣者プロフィール

難波妙／AMDA GPSP 支援局 局長／調整員／総社市在住

### ■協力

川崎医療福祉大学医療技術学部感覚矯正学科、視能矯正専攻教授 高崎裕子、視能訓練士協会 守田好江、モンゴル眼科協会、City Optic (ウランバートル市内眼鏡店)

**東日本大震災復興支援事業**

**AMDA・華蔵寺 東日本大震災 3 か年合同支援プログラム  
第 3 回 高野山参拝**

東日本大震災の復興支援事業の一つとして、華蔵寺（岡山県美咲町）との合同支援プログラムを2012年7月から実施しています。2012年7月には岩手県大槌町から高校生、宗教者の方などを岡山にお招きして、交流事業を行いました。2013年には岡山から華蔵寺のご住職ほか数名の宗教者の方が被災地を訪れ、被災地の方々との交流などを行いました。

そして3年目となる本年は、11月22、



高野山を登る前に参加者のみなさんと

23日の2日間で大槌町から2名を招へいし、岡山の方々と一緒に、高野山への登山、参拝などを行い、交流を深めました。22日、高野山麓九度山慈尊院から大門までの高野山町石道を7時間かけ登り、夜は写経等行いました。

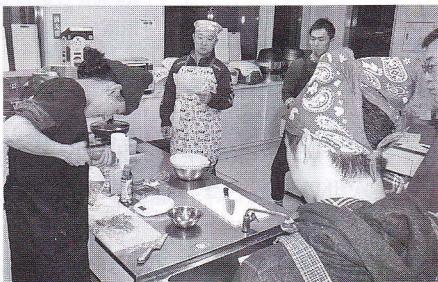
23日には宿坊光明院にて朝勤行後、奥ノ院への参拝、記念植樹をおこないました。午後からは「褒賞状授与式」が高野山真言宗総本山金剛峯寺で行われました。AMDAは「心の修養」の大切さを認め意義深い活動が華蔵時様共にできたことに対して高野山真言宗館長様より褒賞状と記念品を賜りました。

最後に今回の参加者代表として岩手県大槌町から参加したAMDA大槌クラブメンバーの松原氏からお礼の挨拶と大槌町の様子等お話いただきました。今回の合同プログラムの意義を再確認でき皆様と共に「喜びの共有」ができました。

**AMDA 大槌健康サポートセンター（岩手県上閉伊郡大槌町）**

岩手県大槌町で、地域の人々の「心身の健康」をテーマとして「コミュニティ」と「鍼灸室」を備えたAMDA大槌健康サポートセンターを運営しています。多くの方に気軽に参加していただけるよう様々なプログラムを実施しています。

11月29日に初めて開催された「男の料理教室」では、地元のイタリアンレストランのシェフを講師にお招きし、高校生から60代までの男性6人が参加しました。参加者からは、「普段は包丁を持つことはないが、妻に作ってあげたい」「単身赴任で大槌に来ているので、帰ったら家族に作りたい」「料理を作るのが好きになった」など喜びの声が多く聞かれました。



真剣まなざしで先生の手つきを見守る参加者ら

**宮城県南三陸町  
佐藤町長 来岡**



佐藤町長を囲んで

10月8日に南三陸町の佐藤仁町長が岡山のAMDA本部を訪問してくださいました。AMDAは2011年3月11日の東日本大震災の直後から3年間にわたり南三陸町で医療ボランティアの派遣などの支援活動を行ってきました。

震災直後に志津川小学校の避難所で、当時リーダーをされていた町民の方からの「当時志津川小学校の避難所で活動していたAMDAに御礼を伝えてほしい」との声が町長に届き、今回の来訪が実現しました。

佐藤町長からは、AMDAが震災直後に志津川小学校の避難所で医療支援活動を行ったこと、その後も復興支援として継続的に医療ボランティアを派遣したことに対して、直接御礼の言葉をいただきました。今でも南三陸町では多くの方が仮設住宅で生活していることや、仮設住宅からの引っ越しの問題など、被災地の現状や課題についてお話していただきました。

**◆東日本大震災復興支援活動の軌跡◆（2014年6月～11月）**

2014/7/11-7/14	F-1グルメボランティアバスツアー (岡山発着 岩手県陸前高田市)
2014/7/13	第7回復興グルメF-1大会開催 (岩手県陸前高田市)
2014/7/16	気仙沼市長、総社市長、AMDA 理事長鼎談 (総社市主催)
2014/7/18	おかやまコープボランティア受け入れ (大槌町)
2014/8/23-8/27	岡山経済同友会 学生ボランティア受け入れ (大槌町、石巻市雄勝町)
2014/8/25	相馬市長、総社市長、AMDA グループ代表鼎談 (総社市主催)
2014/9/6-9/7	災害鍼灸チーム育成講座プログラム (大槌町、石巻市雄勝町)
2014/10/8	南三陸町長 来岡 (岡山市)
2014/11/1	おかやまコープボランティア受け入れ (大槌町)
2014/10/31-11/3	F-1グルメボランティアバスツアー (岡山発着 福島県相馬市)
2014/11/2	第8回復興グルメF-1大会開催 (福島県相馬市)
2014/11/9	おかやまコープボランティア受け入れ (大槌町)
2014/11/14	南相馬市産米「天のつぶ」購入支援
2014/11/22-11/23	AMDA・華蔵寺合同支援プログラム 高野山参拝
2014/11/26	おかやまコープボランティア受け入れ (大槌町)
2014/12/4	相馬市産米「そうま復興米」購入支援

**鍼灸支援プログラム**

(岩手県大槌町、宮城県石巻市雄勝町)

岩手県大槌町と宮城県石巻市雄勝町で地元鍼灸師の協力のもと、心身の健康維持に効果のある鍼灸支援を行っています。

※書き損じはがき、未使用切手を集めています。AMDA事務局までお送りください。

※通信費の節約に役立たせていただきます。

**月別鍼灸治療のべ患者数 (2014/6から2014/11月末まで)**

大槌町	6月	141人	雄勝町	6月	38人(8日)
	7月	149人		7月	40人(9日)
	8月	109人		8月	30人(6日)
	9月	119人		9月	42人(8日)
	10月	67人		10月	46人(9日)
	11月	112人		11月	29人(6日)

## 大安寺中学生 職場体験受け入れ実施

2014年11月11日から14日までの4日間。岡山大安寺中等教育学校2年生の2人が職場体験に訪れてくださいました。

スタッフからの講義などを挟みながら事務所で細かい作業を手伝って下さいました。



大安寺中学校の2人とAMDAグループ代表菅波茂

2人とも将来は医療の道に進みたいと志高く持っておられる学生さんで、いずれの仕事にも一生懸命取り組んでくださいました。ありがとうございました。

## おかやま国際塾4期生 活動報告会

11月12日、岡山大学文法経講義棟11番講義室を会場におかやま国際塾4期生が中心となって活動報告会を開催しました。

「踏み出そう！世界への第一歩！ひとつのチャンスがあなた

の人生を変える」～グローバル人材に求められるものとは～と題して開催されたプログラムは、実施計画から当日の運営まで、学生が中心となって行われました。



4期生による報告会の様子

## AMDA 設立 30 周年を祝う会開催

1984年の活動開始から30年。AMDA 設立30周年を記念して、「AMDA 設立30周年を祝う会」を開催していただきました。



AMDAグループ関係者を代表して菅波から感謝の言葉

プラザホテルを会場に約500人の方々が集う盛会となり、海外からも24の国と地域から60人を超える方が参加してくださいました。

多くの皆様に支えられて、30年間活動を続けることができました。これまで緊急人道支援をはじめとする様々な活動を実践できる機会をくださいましたのは、皆様からの変わらぬご支援のおかげです。改めて、心より御礼申し上げます。

今後は、国際医療支援活動にとどまらず、これまでの経験を活かして「世界平和パートナーシップ構想」の基に活動を展開してまいります。今後とも引き続き、何卒よろしくお願いたします。

AMDAグループ代表 菅波 茂  
AMDAスタッフ一同

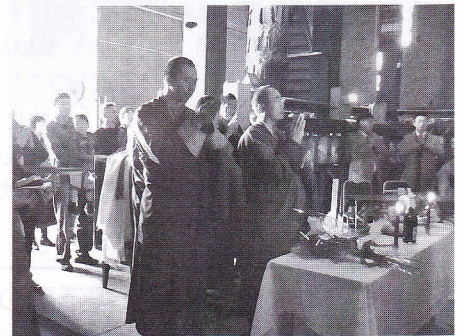
## 第7回 医療と魂のプログラム (ASMP) 開催

毎年モンゴル仏教総本山ガンダン寺においておこなわれるAMDA医療と魂のプログラム (ASMP) は今年で7回目の開催となりました。

ハルハ河戦争から75周年目の節目となる本年も日蓮宗様、宗教法人大本様にご参加いただき、ガンダン寺のご住職がたとともに、第二次世界大戦で尊い命を捧げたモンゴル、日本両国の犠牲者のご冥福を祈り、世界平和を祈願しました。

ガンダン寺モンゴル仏教学校校長バムバジャム師からは「ASMPがこれほど長く続いていることは非常に嬉しい、今後も是非続けてほしい」との言葉をいただきました。また、日蓮宗宗務総名代として昨年からご参加いただいている齊藤堯園ご住職からは、「日本が恒久平和を追求していく役割の大切さ」を、大本モンゴル本部事務局長アルタン・ウルジ・バトエルデネ氏からは、「人と人がお互いに想い合う世界への希望」を訴え、世界平和を祈願しました。

AMDAは認定NPO法人です。いただきましたご寄附は税法上の特例措置の対象になります。今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。

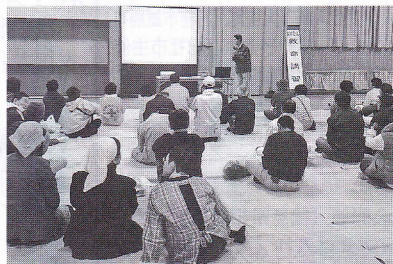


ASMPの様子

## 総社市防災訓練参加報告—命を守る 三者連携の稼働

11月9日、総社中学校を会場として総社市主催の防災訓練が実施されました。AMDAは2013年に締結した総社市と岡山県立大学、AMDAとの三者連携協定に基づき参加協力し、訓練には総社市の住民、市職員、警察、消防などが参加しました。

AMDAは連携協定締結から2回目の参加となります。体育館での訓練では、岡山県立大学の学生が避難所の話とダンボールベッドについて講義がされ、またAMDA職員が広島県土砂災害の緊急救援の経験を元に、避難所の状況、気をつけることなどについて講義を行いました。



AMDAが担当した講義の様子

## 「夢童」出版予定のお知らせ

新聞にAMDAグループ代表・菅波茂が連載中のコラム「夢童」が連載200回を記念して、書籍化することとなりました。3月以降に書店に並ぶ予定です。

